

情報公開文書

研究の名称	プリザーフロマイクロシャントとEx-Press®とトラベクレクトミー術後早期における眼圧下降
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学学術研究部医学系 眼科学 眼科 林 篤志
研究の概要	<p>【研究対象者】 富山大学附属病院で難治性緑内障と診断されプリザーフロマイクロシャントかEx-Press®もしくはトラベクレクトミーが施行され、術後少なくとも6カ月経過観察できた患者さんを対象とする。</p> <p>【研究の目的・意義】 線維緑内障は神経節細胞の消失がおこり、視野、視力障害をきたします。眼圧下降により緑内障進行は抑制されますが、しばしば薬物によっても眼圧下降が達成されない場合、手術加療が必要になります。緑内障濾過手術は眼圧下降効果に優れ、視機能維持効果も高いですが、術中、術後の合併症による視力低下がしばしばみられます。合併症を少なくするため、最近では低侵襲緑内障手術が行われるようになりました。低侵襲緑内障手術としてプリザーフロマイクロシャントが2022年3月に国内承認され使用されて使用されております。プリザーフロマイクロシャントは既存の濾過手術であるEx-Press®やトラベクレクトミーと比較して、強膜フラップの作製を行わないため低侵襲です。プリザーフロマイクロシャントの術後成績はトラベクレクトミーと比較されておりますが、Ex-Press®との比較した報告は多くありません。</p> <p>したがって今回我々はプリザーフロマイクロシャントとEx-Press®とトラベクレクトミーの3つの濾過手術の成績を比較するため後ろ向きの研究を実施いたします。プリザーフロマイクロシャントとEx-Press®とトラベクレクトミーの手術成績を比較検討することで今後同じ手術を受ける患者に対してどちらの術式がより効果的かを説明する根拠となります。</p> <p>【研究の方法】 診療録による後ろ向きの調査を行い、術後6カ月後の手術成功率、視力、眼圧、点眼スコア、合併症の有無を調査いたします。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2026年3月31日</p> <p>【利益相反の状況】 公開すべき利益相反はありません。</p> <p>【研究結果の公表の方法】 論文掲載を予定しています。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法	情報の項目：術後視力、眼圧、点眼スコア、合併症の有無 他機関への情報の提供：無

（他機関への提供の有無）	
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院長 林 篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	学術研究部医学系眼科学 教授 林 篤志
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 眼科医局 076-434-7363</p> <p>FAX 076-434-5037</p> <p>E-mail otsuka@med.u-toyama.ac.jp</p> <p>担当者所属・氏名 学術研究部医学系眼科学 大塚光哉</p> <p>研究対象者等からの相談窓口 電話対応</p>